

今と昔と

2016年6月

池田雄二

広島・長崎への原爆投下と真珠湾奇襲攻撃について最近また話されている。古い話だからもういいのではないかとの意見もあるだろうが、オバマ大統領の広島訪問を機に日米でいろいろ意見が出ているようだ。

インターネットの時代だから日米間で意見を交わす良い機会だと思う。
(誰か板を立ててくれよ)

真珠湾攻撃は奇襲攻撃ではあったが軍港を攻撃したもので戦闘行為の範囲である。広島・長崎の原爆攻撃は民間人に対する無差別大量殺人であり比較にならない。アメリカ人の多くは、先に手を出した日本が悪いと考えるようだが、アメリカ人には日本人が考えるような正義感が無いことが良く分かる。

怪しげではあるが丸腰の黒人を白人警官が後ろから射殺しても、ほとんど罪にならない国である。「力は正義なり」と言うのが彼らの本音だろう。

「弱きを助けその強きをくじく」は武道の極意として日本人の心の奥に未だ少しは残っていると思う。イスラムの人たちもこの考えに近いように思う。彼らは暴力的な人たちとは思えない。

力任せの暴力に対する報復としてテロを続けているのだと思う。1人の自爆テロで10人の敵を殺せれば成功であろう。1万人の手で10万人死なせられればOKだろう。3千万人の自爆テロで3億人のアメリカ人全てを殺すのが彼らの夢かもしれない。

「力は正義なり」とアメリカ人が言い続ける限りテロは終わらないように思える。テロの始まりは意外にも原爆投下の肯定がスタートポイントではないだろうか？

オバマは何となく広島にやって来たが謝罪はなかった。まことに中途半端だった。はっきりしていると言う点では、トランプの方が良いかもしれない。日本の首相のように情報を隠す、マスコミに圧力をかける、ウソをついて後でごまかす、ような人格ではついていけないような激しい時代が始まろうとしている。

オバマやアベのような中途半端な政治家の時代は終わろうとしているように思える。

お粗末さま